お姉ちゃんが教えてくれたこと

白鷹町立鮎貝小学校　五年　浅野　生明

私のお姉ちゃんは難病です。千人に一人と言われるとても珍しい病気です。この病気の大変なところは、周囲から見ても病気や障害があるということが非常に分かりにくい点です。普段のお姉ちゃんは、私と一緒にお喋りをして笑い、普通の女の子にしか見えません。しかし、はげしい運動をしたり、お風呂に長く入ったりすると、突然手足が動きにくくなったり、目がビカビカしたり、頭がいたくなったりと、お姉ちゃんはいつ体調がくずれるか分からないという不安と毎日戦っているのだと思います。それでもお姉ちゃんはいつも私に対してとても優しいです。もちろんけんかもするけど、思いやりの心を持ってせっしてくれます。私はそんなお姉ちゃんを見ながら、あることに気がつきました。それは、世の中には障害や病気をかかえながら、一生懸命に生きている人がたくさんいるということです。車いすに乗っている人や、目が見えなくて、白杖を持っている人だったり、パッと見て、「サポートが必要だな。」と分かる人ばかりでなく、一見、元気そうに見える人でも心ぞうの病気、そしてお姉ちゃんのような脳の病気など、周りからは分からない、生きづらさがあるんじゃないかと思います。「あの人は、いつも学校を休んでんじゃん。」「何もしてないくせに、好きな時に自分専用のベットで寝れるなんてずるい。」と思う前に、一度立ち止まって、「もしかしたら、何か事情があるのかもしれない。」と相手の気持ちも考えてみてほしいです。その小さな優しさが、その人にとって、とてもすくいになると思います。心の輪を広げるということは、決して遠くの誰かの話ではなく、すぐとなりにいる身近な人のことです。お店の中や学校で、あの人、少し様子が変だな、辛そうだなと感じる人に出会ったら、迷わずに、「大丈夫ですか。」とその一言をかけてほしいです。その人にとって、その一言は、とてもうれしいと思います。障害や病気がある人もない人も、お互いのちがいや見えない大変さを想像し、みとめ合

い、支え合って心の輪を広げていきたいです。心の輪が広がれば、誰もが不安を感じることなく、自分らしく安心して笑顔でくらせる、平和な世界を作っていけると、信じています。